

# 伊豆市子ども読書活動推進計画

本とともに子どもたちを育むまちー伊豆市

伊豆市子ども読書活動推進委員会  
伊 豆 市 教 育 委 員 会

2019（平成31）年2月改定

## 伊豆市子ども読書活動推進計画 目次

### 第1章 はじめに (計画改定の趣旨)

- 1 計画改定の趣旨 ..... 1
  - (1) 子どもを取り巻く環境
  - (2) 読書活動がもたらすもの
  - (3) これまでの取組の成果と課題
- 2 計画策定から改定までの経過と施策の方向性 ..... 3
  - (1) 子どもの読書活動の推進に関する法律
  - (2) 静岡県子ども読書活動推進計画
  - (3) 伊豆市子ども読書活動推進委員会
  - (4) 伊豆市子ども読書活動推進計画
  - (5) 本とともに子どもたちを育むまち - 伊豆市 (「親子読書」の普及と啓発)

### 第2章 読書活動推進のための基本的な方針

- 1 伊豆市の現状と課題 ..... 5
  - (1) 地域全体で子どもたちを育てる環境を整える
  - (2) 大人との係わりの中での子どもの読書習慣
  - (3) 読み聞かせボランティアの活動と子どもの読書活動の活性化
  - (4) 子どもの読書活動推進の拠点となる市立図書館と学校図書館
  - (5) 魅力的な蔵書の充実と学校司書の人的配置の促進
- 2 基本的な方針 ..... 8
  - (1) 家庭・地域における子どもの読書活動の推進
  - (2) 各園・学校における子どもの読書活動の推進

### 第3章 読書活動推進のための具体的な取組

- 1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進 ..... 9
  - (1) 家庭における取組への支援
  - (2) 地域の読み聞かせボランティアへの支援
  - (3) 地域社会への理解の促進
  - (4) 市立図書館における取組
- 2 各園・学校における子どもの読書活動の推進 ..... 13
  - (1) 各園の取組
  - (2) 学校の取組
- 3 連携を図るための方策 ..... 16
- 4 資料 ..... 18
  - ・子ども読書活動に関するアンケート集計結果
  - ・平成30年度伊豆市子ども読書活動推進委員会委員

## 第1章 はじめに（計画改定の趣旨）

### 1 計画改定の趣旨

#### (1) 子どもを取り巻く環境

今日、私たちを取り巻く情報通信の環境は、常に著しく変化しており、インターネット環境が急速に子どもたちの生活に入り込み、電子書籍が身近な存在になるなど、子どもたちが読書をする環境にも時代の流れの変化が大きく影響していると考えられます。

伊豆市教育委員会は、平成23年4月に市内の児童・生徒を対象に読書活動に関するアンケート調査を実施しました(以下、「前回アンケート」と記述します。)。今回、7年間を経過した平成30年4月に、再度、同じ方法と内容で市内小学校・中学校・土肥小中一貫校(以下、「義務教育学校」と記述します。)、高等学校の、小学校6年生(義務教育学校6年生を含む)、中学校2年生(義務教育学校8年生を含む)、高等学校2年生の児童・生徒を対象に、アンケート調査を実施しました(以下、「今回アンケート」と記述します。)

今回アンケートでは、「自由に過ごせる時間にどのように過ごしたいか」という質問に対して、「自分の趣味を楽しみたい」「なにもせずのんびり休みたい」という回答が前回アンケートと同様に上位となり、「好きな本を読みたい」という児童・生徒はまだまだ少ない傾向にあります。また「自由に外で遊びたい」という回答が前回アンケートよりも大きく減少し、「ゲームをしたい」という回答の増加をみますと、子どもたちの興味はゲームに傾いていると思われれます。

「1カ月に本をほとんど読まない」という児童・生徒は、小学生で9.8(前回8.1)%、中学生では15.5(前回12.5)%、高校生では20.0(前回32.9)%という結果となり、小・中学生でわずかに増加してしまいましたが、高校生は減少し改善しました。また、「1カ月に10冊以上本を読む」という児童・生徒の割合は、小学生で12.1(前回10.2)%、中学生では6.2(前回1.8)%、高校生では6.0(前回2.9)%で、本を多く読む児童・生徒が増加しましたが、小・中学生で本を読む子と読まない子はわずかに二極化が進みました。一方、高校生の二極化の改善は1人平均の読書量2.9冊に現れ、静岡県子ども読書活動推進計画 - 第三次計画 - の目標数値である2冊よりも上回っています。

伊豆市教育委員会では、これまで「伊豆市子ども読書活動推進計画」を平成17

年度に策定、平成 23 年度に改定し、こども園・保育園(以下、「各園」と記述します。)  
小学校・中学校・義務教育学校・高等学校(以下、「学校」と記述します。)  
家庭・地域・市立図書館や行政等が一体となって子どもの読書活動の推進に取り組んできました。今までの計画の考え方は受け継ぎ、今回のアンケートの結果を踏まえ、ここで新たな指針となる計画の見直しをします。

## (2) 読書活動がもたらすもの

読書活動を通して、言葉を学び、物事を深くとらえるようになり、表現力を高めることができます。また、長い間に培われてきた文化を継承し、様々な価値観に触れることもでき、自立した個人としてより良い生き方を考える機会を与えてくれます。特に、子どもにとっての読書は、想像力を豊かなものとし、子どもの成長を助けます。

読書は、人が人としてより良く生きるために大切なことであり、子どもにとって欠かすことのできない営みであります。

## (3) これまでの取組の成果と課題

平成 18 年からこれまで、様々な取組の中で、周囲の大人が子どもの読書活動に関心を高めてきたことは評価できます。市内の各園・小・中・義務教育学校では、地域の方や保護者のボランティアが子どもたちに読み聞かせを行っています。また、小学校では「週末読書」や「家庭読書の日」を設定し、家の人と本を読む日として、家庭の協力を得て実施しています。アンケートの結果でも、前回より、家の人に本を読んでもらった経験がある子が増加しています。家の人に本を何度も読んでもらった子は、小学生で 45.4(前回 35.9)%、中学生では 44.8(前回 21.7)%、高校生では 21.3(前回 16.9)%と増加しています。

地域の読み聞かせ活動でも、読み聞かせボランティアが市立図書館にボランティア登録をし、情報交換をするとともに活動の輪を広げています。

伊豆市教育委員会では、「伊豆市の子どもにおすすめの本百選」を選定し、広報活動に努めています。これまでの取組の成果として、本を読むことがとても好きな子が、前回アンケートと比較して増加しており、今回アンケートで「本を読むことがとても好き」という児童・生徒は、小学生で 24.2(前回 23.0)%、中学生で 35.1(前回 24.3)%、高校生では 24.0(前回 15.5)%という結果になりました。

課題として、今回アンケートでは、小学生で「ほとんど本を読まない」という子がわずかに増え 9.8 (前回 8.1) %、1 か月の子ども 1 人の平均読書量が 5.5(前回 4.7)冊で、県が平成 28 年に調査した子ども 1 人の平均読書量の 6.4 冊に届いていないので、今後、読書量を増加するよう意識した取組が必要です。また、子どもたちの限られた時間の中で読書をすることや、自由に過ごせる時間の使い方の優先順位が読書となるような働きかけができる環境を定着させます。

## 2 計画策定から改定までの経過と施策の方向性

### (1) 子どもの読書活動の推進に関する法律

平成 13 年 12 月、国は「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布、施行しました。このことを受け、政府は翌年 8 月に、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うようになることを基本理念とし、そのための施策の推進を図るための「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を閣議決定しました。その後、平成 18 年には教育基本法が 60 年ぶりに改正され、その理念を受けて学校教育法も改正されました。同法においては、義務教育として行われる普通教育の目標の一つとして「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」が掲げられています。さらには、平成 20 年 3 月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の第二次計画が策定、平成 25 年 5 月に第三次計画、平成 30 年 4 月には第四次計画が策定されました。

### (2) 静岡県子ども読書活動推進計画

平成 16 年 1 月、静岡県教育委員会は「静岡県子ども読書活動推進計画『読書県しずおか』をめざして」を策定。その後、国の第二次基本計画を参酌し、平成 23 年 3 月に「静岡県子ども読書活動推進計画 - 第二次計画 - 」を策定、『読書県しずおか』を構築するための子どもの読書活動を推進してきました。

それから 7 年が経過し、県は平成 30 年 3 月に『読書県しずおか』を定着させるための「静岡県子ども読書活動推進計画 - 第三次計画 - 『本とともにだち』プラン」を新たに策定しました。この計画は、これまでの基本方針や現状・課題・新たな時代の要請等を踏まえつつ、家庭・地域・学校が連携を図り、社会全体で読書推進に取り組んでいくための施策の方向を示しています。特に、生涯にわたって読書を楽しむ習慣の基礎を身に付ける乳幼児期において、親子読書の更なる推進を図るととも

に、読書離れが危惧される中高生における読書活動の推進においても、具体的な施策が盛り込まれました。静岡県子ども読書推進計画の基本的な考え方は『読書県しずおか』の構築です。乳幼児期「本に出会い、本を知る」、就学期「本に親しみ、本を活かす」、成人期「本と生き、本を伝える」を目標に、県民一人一人の生涯を通じた読書習慣の確立と、読書の素晴らしさを次世代に繋げるというものです。第一次、第二次計画よりもさらに子どもの読書活動を推進する環境を定着させるため、第三次計画『本とともにだち』プランが策定されました。

### (3) 伊豆市子ども読書活動推進委員会

伊豆市教育委員会では、平成 17 年 1 月「伊豆市子ども読書活動推進委員会設置要綱」を制定し、「伊豆市子ども読書活動推進計画」を策定するとともに、伊豆市の子ども読書活動に関して長期的・総合的な見地から意見を述べ、推進していく第三者的機関を設置しました。平成 17 年度、この委員会で「伊豆市子ども読書活動推進計画」が報告され、教育委員会として本計画を策定し、平成 23 年度には計画の改定をしました。この委員会は、子ども読書活動の推進のための具体策を提言し、広報啓発事業を実施するとともに、この推進計画が遅滞なく実施されているか調査・協議し、教育委員会に報告してきました。

### (4) 伊豆市子ども読書活動推進計画

平成 17 年度に策定した「伊豆市子ども読書活動推進計画」は、伊豆市の子ども(おおむね 18 歳以下の者)の読書環境の整備のための基本的な方針と、推進すべき具体的な方策を明らかにしたものです。

この推進計画は、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、また、そのための市民の理解と協力を得られるよう、各園・学校・家庭・地域・市立図書館・行政が行わなければならない方策を定めたものです。

平成 23 年度に改定した「伊豆市子ども読書活動推進計画」は、国及び静岡県において、第二次基本計画が策定されたことを受け、伊豆市教育委員会としてもこれまでの取組を見直したうえで推進計画を改定しました。

前回の改定から 7 年が経ち、平成 30 年 3 月に静岡県教育委員会において「静岡県子ども読書活動推進計画 - 第三次計画 - 『本とともにだち』プラン」が新たに策定さ

れたことを受け、伊豆市教育委員会としてもこれまでの計画を再度見直しました。

#### (5) 本とともに子どもたちを育むまち - 伊豆市(「親子読書」の普及と啓発)

今回改定する「伊豆市子ども読書活動推進計画」は、これまでの計画の理念や内容を受け継いでいます。子どもが今よりも読書する時間や本と一緒に過ごす時間が増えるようにするためには、周囲の大人の理解が不可欠であり、大人が子どもに本を読む、物語を語る、良い本を紹介する、自分が読んだ本について子どもに話すなど、本を通して子どもと係わりながら大人自身も成長していくことが期待されます。

今回の「伊豆市子ども読書活動推進計画」には、静岡県第三次計画の取組にある「親子読書」を伊豆市においても推進したいため盛り込みました。親子あるいは家族で読書をする「親子読書」の普及と啓発活動は、子どもの読書活動の推進と大人の生涯学習に繋がります。伊豆市の子どもから大人までの全ての方々が読書を通してより良く生き、そして、子どもたちの成長を本とともに地域で育てていく「本とともに子どもたちを育むまち - 伊豆市」の構築を目指していきます。

## 第2章 読書活動推進のための基本的な方針

### 1 伊豆市の現状と課題

#### (1) 地域全体で子どもたちを育てる環境を整える

平成28年12月に、伊豆市生涯学習大綱を策定する資料とするため、20歳以上の市民に生涯学習に関するアンケート調査を実施しました。それによると、子どもの読書活動については「学校・家庭・行政が連携して進めるとよい」という回答が40.0(平成17年41.8)%におよびました。また「学校と家庭が連携を取りあって進めるとよい」という回答は23.0(平成17年32.3)%でした。これらは、「家庭の責任で」14.0(平成17年9.2)%、「学校が中心に」9.0(平成17年5.3)%、「行政が主導で」2.0(平成17年3.2)%という回答よりも「学校と家庭が連携を取りあって進めるとよい」という回答が大きく上回るものです。

この結果から、伊豆市の子どもの成長は、伊豆市全体で見守ることが大切であるという市民の考えは変わらず、これからも各園・学校・家庭・行政、そして子どもを取り巻く地域全体が互いに連携を取りあって、子どもたちを育てる環境を引き続き整えることが大切です。

また、このことは、平成 28 年度に策定された第 2 次伊豆市総合計画の施策「家庭や地域の教育力向上と連携強化」にも盛り込まれています。

## (2) 大人との係わりの中での子どもの読書習慣

今回の子ども読書活動に関するアンケートの中で、本を読むことが「とても好き」と答えた子どもに「周囲の大人に、良い本だということで、本を紹介してもらった経験があるか」と聞きました。その間に 80.5(前回 70.8)%の子どもが「何度もある」または「少しはある」と答えています。また、本を読むことが「とても好き」と答えた子どものうち 89.5(前回 79.7)%の子どもが、「家族の人に本を読んでもらった経験がある」と答えています。

一方で、本を読むことが「きらい」と答えた子どものうち 52.0(前回 55.0)%の子どもが「本を紹介してもらった経験がない」、また 40.0(前回 50.0)%の子どもは「家族の人に本を読んでもらったという記憶がない」と回答しています。

【今回アンケート ( )は前回アンケート】

	周囲の大人に本を紹介してもらった経験がありますか。		家族の人に本を読んでもらった経験がありますか。	
	本を読むことがとても好きな子	本を読むことがきらいな子	本を読むことがとても好きな子	本を読むことがきらいな子
何度もある	28.6% (34.2%)	16.0% (11.8%)	59.2% (40.5%)	28.0% (19.2%)
少しはある	51.9% (36.6%)	32.0% (33.2%)	30.3% (39.2%)	32.0% (30.8%)
記憶にない	19.5% (29.2%)	52.0% (55.0%)	10.5% (20.3%)	40.0% (50.0%)

このように、子どもの読書習慣を形成する上で、大人が、特に保護者(家族)・教員・保育士等が読書活動に理解と関心を持ち、子どもと積極的に係わりを持つことが大切です。周囲の大人が子どもに本を読むことや、良い本を紹介することは、本好きな子どもを増やしていくことに繋がります。また、子どもは読書する大人の姿などに触発されて、自主的に読書に関する意欲を高め、望ましい読書態度や読書習慣を身に付けていきます。

### (3) 読み聞かせボランティアの活動と子どもの読書活動の活性化

市内では、保護者や地域の読み聞かせボランティアの方が、各園・学校・地域の集会場・市立図書館等で読み聞かせをし、子どもの読書に親しむ機会を提供しています。特に小・中学校・義務教育学校においての活動では、読み聞かせやおはなし会ばかりでなく、子どもたちが読書をしやすいための学校図書館の環境整備に協力することでも活躍しています。

また、保護者や地域の読み聞かせボランティアの方が、活動する学校や地域を越え、毎年市民文化祭に集い、読み聞かせイベント「いずっこおはなしサロン」の場においても活躍しています。保護者や地域の読み聞かせボランティアの方が、子どもの読書活動を推進させる力は大きく、今後もこのような方々の活動を積極的に支援していくことが大切です。

### (4) 子どもの読書活動推進の拠点となる市立図書館と学校図書館

子ども読書活動に関する今回のアンケートの結果は、市立図書館や学校図書館の利用状況について、今後の課題を示しています。子どもが市立図書館を1ヶ月に1回以上利用する割合は、前回アンケートと比較してみると、小学生 22.3（前回 38.2）%・中学生 20.9（前回 19.3）%・高校生 2.1（前回 2.8）%です。小学生は 15.9%減少しましたが、その理由として、伊豆市の人口について、前回アンケートを実施した平成 23 年度と平成 30 年度を比較すると約 10.7%減少しています（平成 23 年 4 月 34,820 人、平成 30 年 4 月 31,089 人）。また、市立図書館の来館者数を比較すると約 15.1%減少しています（市立図書館来館者数：平成 23 年度 102,647 人、平成 29 年度 87,193 人）。保護者や家族と一緒に市立図書館を利用することが多い小学生は、この人口と来館者数の減少とともに、小学生が市立図書館を利用する機会が減少したと思われます。

また、学校図書館を「ほとんど利用しない」と答えた子どもの割合は、小学生 7.7（前回 6.7）%・中学生 32.6（前回 36.2）%・高校生 61.7（前回 69.0）%と、中学生・高校生では改善が見られます。

最近の子どもの興味・関心は多様化しているため、ここにあげた数字が本に触れている割合を正確に表しているわけではありません。こうした現状をとらえ、各学校・市立図書館は子どもたちのニーズを把握することに努めつつ、子どもが利用しやすい図書館の環境整備を進めていくことが大切です。そのためには、子どもの読書活

動に関心を持って取り組むことと、教育委員会が中心となり他の行政機関や家庭にも働きかけて、市立図書館や学校図書館の利用者拡大に向けた体制を整備しなければなりません。

#### (5) 魅力的な蔵書の充実と学校司書の人的配置の促進

市立図書館のサービス指標における伊豆市立図書館の蔵書冊数（人口1,000人当たり）は、5,725冊（平成30年3月現在）となり、県内全市立図書館の平均蔵書冊数3,559冊を大幅に超え、今もその水準を保っています。（「平成30年度静岡県の図書館」）

学校図書館の蔵書冊数についても、平成24年度では国が定める標準図書数に満たない小学校が市内にありましたが、平成28年度以降、市内全ての学校図書館が標準図書数を満たしています。（「平成28年度学校図書館の現状に関する調査」）

これからの市立図書館や学校図書館は、図書館機能の充実のため子どもが興味を持ち、感動する本を充実させ、情報が古くなった本の更新を行いつつ、魅力的な蔵書構成に努めます。また、子どもたちにとって読書活動の相談や読書環境を整える学校司書の人員が、より多くの学校に配置されることが望まれます。

## 2 基本的な方針

### (1) 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

- ア 子どもが保護者や家族と一緒に読書をする「親子読書」を推進します。
- イ 子どもが乳幼児期から家族とのふれあいの中で本に出会うことができるように支援します。
- ウ 地域の読み聞かせボランティアの育成に努めるとともに、読み聞かせボランティアの方々の交流と情報交換をする機会を設けます。
- エ 市立図書館が地域における子どもの読書活動の拠点となるように、情報発信と、子どもが興味を持ち感動する本の充実に努めます。
- オ 市立図書館と学校図書館の連携を深めつつ、地域の読み聞かせボランティアと協力を図り、読書活動を推進します。

### (2) 各園・学校における子どもの読書活動の推進

- ア 発達段階に応じて、子どもが読書体験を深めることができるように、子ども

が興味・関心を持つことができる本の紹介や働きかけをします。

イ 各園・学校は、子どもが読書を楽しむ習慣の基礎を身に付けるための「親子読書」を推進します。

ウ 各園・学校は、子どもが本に親しめるように、蔵書の充実に努めます。

エ 各園・学校で、地域の大人が読み聞かせなどを行えるように、開かれた各園・学校づくりの推進に努めます。

### 第3章 読書活動推進のための具体的な取組

#### 1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

子どもの読書習慣は、日常の生活の中で育まれていくものです。各家庭においては、子どもの生活の中に読書が位置づけられるように配慮するとともに、保護者が読み聞かせをしてあげるなどの、子どもと一緒に読書をする「親子読書」の時間が大切になります。家庭で読書に対する興味や関心を引き出す働きかけが、保護者によって日常的に行われる「親子読書」の時間を持たれることが望めます。

そのために、様々な機会を通じて、子どもが気軽に本に触れる環境づくりを地域で整える必要があります。中でも市立図書館は、子どもが豊富な蔵書の中から自分が読みたい本を自由に選択することができる場所であり、保護者にとっても子どもの読書について相談できる場所です。市立図書館が地域における子どもの読書活動の中核的な役割を果たせるように、これからもその整備に努めていかなければなりません。

また、地域で子どもたちのために読み聞かせをするボランティアが、各園や学校、地域の集会場を利用して読書に親しむ機会を提供しています。教育委員会や市立図書館は、こうした読み聞かせボランティアの育成に努め、活動の場を提供していくとともに、市民に情報を提供して多くの人たちがそのような場に参加できるようにしていかなければなりません。

##### (1) 家庭における取組への支援

ア 家庭で読書する時間を確保するための「ノーメディアデー」の実践を各家庭に提案し、市内全域に広まるように努めます。

月に1回程度、テレビ・ゲーム・パソコンなどのすべてのメディアを控え、

家族全員で読書をする「親子読書」を設ける「ノーマディアデー」を、市内の各家庭に提案します。「ノーマディアデー」をいつにするのか、各家庭の事情を考慮して、曜日や時間帯を家族全員で話し合ってから決めることから始めることを勧めます。

学校では「週末読書」や「家庭読書の日」を設け、その日は「家庭で読書をする日」として取り組んでいる学校もあります。このような取組と協力して、市内全域の各家庭に広まるように努めます。

イ 「伊豆市民読書の日」を設け、子どもたちが読書に親しむ機会を作ります。

4月23日（子ども読書の日）、5月6日（郷土が誇る文豪 井上靖先生の誕生日）、10月27日（文字・活字文化の日）を「伊豆市民読書の日」とし、各家庭で「親子読書」をする時間を設けることを呼びかけます。また、これらの日をきっかけとして読書に対する関心を高めるように働きかけます。

ウ 市立図書館で実施している「ブックスタート事業」を継続していきます。

赤ちゃんとその保護者が、絵本を介してゆっくりと心ふれあうひと時を持つように、ブックスタート事業を継続していきます。市内のすべての赤ちゃんとその保護者に絵本の良さを伝えながら、絵本を赤ちゃんとその保護者に直接手渡せるように、健康福祉部の母子保健事業担当課と市立図書館が連携し、協力して進めます。

エ 修善寺図書館で「ベビータイム」を設定します。

赤ちゃんや小さい子ども連れの親子でも気兼ねなく図書館を利用してもらうため、修善寺図書館の開館時間の一部を「ベビータイム」として設定します。

この時間帯では、館内にある視聴覚室を親子に開放し、読み聞かせボランティアや図書館司書による読み聞かせや様々な講座を開催します。また、視聴覚室に絵本を並べ、親子がリラックスして気軽に「親子読書」ができるスペースも確保します。

オ 保護者を対象とした読み聞かせ等の講座を計画的に開催します。

保護者の方に乳幼児期からの読書活動の大切さを理解してもらうとともに、

家庭での読み聞かせ方法や絵本の有効な活用方法などを知ってもらう機会をつくるため、読み聞かせ等の講座を計画的に開催します。

こうした講座は、各園・学校・市立図書館・教育委員会等が主催となって実施するよう働きかけます。特に市立図書館では、読み聞かせや読書の重要性についての理解の促進を図ります。

## (2) 地域の読み聞かせボランティアへの支援

ア 地域の読み聞かせボランティアを対象に研修会を開催します。

子ども読書活動の推進を図る地域の読み聞かせボランティアの情報交換会や研修会を行い、読み聞かせ活動をより充実させていきます。

イ 地域の読み聞かせボランティア団体の情報を市民に発信していくことに努めます。

市立図書館では、地域の読み聞かせボランティア団体の情報を集めるとともに、その活動を市民に広報を通して伝え、読み聞かせボランティアの広まりを促進し、地域の読み聞かせボランティア団体が実施する事業への参加者の拡大を図ります。

ウ 地域の読み聞かせボランティアによる定期的なおはなし会の開催を支援します。

市立図書館や地域の集会場などで、定期的なおはなし会が開催できるように支援します。

エ 静岡県子ども読書アドバイザーの活動の場を広げ、市民が気軽に相談できるよう便宜を図ります。

県では、市町における読み聞かせボランティアのリーダー、学校や市立図書館とボランティアをつなぐコーディネーターなどとして活躍する「静岡県子ども読書アドバイザー」を養成しています。伊豆市でも、この「静岡県子ども読書アドバイザー」が活動する場を積極的に設定し、地域の読み聞かせボランティアとして活動する人たちが気軽に相談できるように環境を整えていきます。

オ 子どもの読書活動の推進に資する活動を行う団体や個人を顕彰します。

市内で子どもの読書活動の推進に関わる活動を行っている団体や個人を教育委員会で表彰し、そうした活動の広まりに努めます。

### (3) 地域社会への理解の促進

ア 「伊豆市の子どもにおすすめの本百選」の見直しを継続していきます。

平成 18 年度に「伊豆市の子どもに読ませたい本百選」として、市内の子どもたちに読んでもらいたい本を百冊選定しました。その後、平成 25 年度には選定した本を見直しし、名称も「伊豆市の子どもにおすすめの本百選」と改め、平成 29 年度にも再度選定した本の見直しをしました。今後も選定した本の内容を精査し、子どもたちが興味を持ってくれる本の「百選」となるように継続して見直しをしていきます。

イ 読書活動に係わる読み聞かせボランティアの養成講座を開催します。

読み聞かせ、ブックトーク、パネルシアターなどの実技講座を開催し、読書活動推進を図る読み聞かせボランティアの養成を進めます。また、同時に読み聞かせボランティアとして活動している方のステップアップを図る講座も開催します。

ウ 放課後児童クラブでの読書活動の充実を図ります。

放課後児童クラブは、家に帰ってもその時間帯に家に大人がいない子どもたちが集まる場所です。そうした放課後児童クラブで、読書の時間を設ける、おはなし会を開催するなど、子どもたちが本に親しむ時間を確保します。また、市立図書館と連携し、放課後児童クラブにおいて子どもたちが興味や関心を持てるような読書活動の充実を図ります。

### (4) 市立図書館における取組

ア 国の基準に基づいて、市立図書館の整備・充実を図ります。

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成 24 年文部科学省告示第 172 号)」に基づき、サービスの向上と設備の充実に努めます。

イ 「親子読書」を推進します。

「親子読書」を推進するため、子どもが赤ちゃんの時から親子で絵本にふれてもらう「ブックスタート事業」を実施し、親子で市立図書館を利用しやすくするための「ベビータイム」を修善寺図書館で設定します。また、年齢に応じたおはなし会や親子向けの講座を開催し、「親子読書」のきっかけとなる機会を提供していきます。

ウ 図書館だよりの内容を充実させ、子どもの読書活動の推進に関する情報誌としての機能も持たせます。

市内に回覧している図書館だよりを市立図書館の案内だけにとどまらず、読書活動の推進を図るためのイベントの情報なども盛り込んでいきます。また、市立図書館のホームページに地域の読み聞かせボランティアの情報や子どもの読書活動の推進に関する内容も掲載します。

エ 地域の読み聞かせボランティアの養成とボランティア活動の機会を提供します。

地域の読み聞かせボランティアとしての必要な知識・技術を習得するための学習の機会と、市立図書館で読み聞かせボランティアとしての活動の場を提供し、子どもの読書活動を推進する地域の読み聞かせボランティアを支援します。

オ 特別な支援を必要とする子どもへのサービスの充実に努めます。

障がいのある子どもや在住外国人の子どもの読書活動を支援するために、さわる絵本や布の絵本、大活字本、また外国語資料等の収集に努め、子どもに応じた利用案内やレファレンス・サービスの提供ができるように努めます。

## 2 各園・学校における子どもの読書活動の推進

子どもが生涯を通じて好ましい読書習慣を身に付けるためには、幼児期に読書の楽しさと出会うことが大切です。そのために各園では、園児が絵本や物語などに親しむ活動を積極的に行うようにしていきます。また、各家庭において「親子読書」など親子（家族）のふれあいを大切にした読書活動の重要性についての理解を深めるために、保護者に対して読み聞かせ等の大切さや意義を広く普及していきます。

さらには、未就園児と保護者を対象とした子育て支援活動を各園で実施する際、子どもの読書活動推進について啓発していくように努めます。

学校では、「楽しんで読書しようとする態度を育てること」や「読書に親しみ、ものの見方や考え方を広げようとする態度を育てること」を目標として、児童・生徒の読書活動が日常的に行われるように努め、そのための教職員の理解の促進、学校図書館の整備、地域の読み聞かせボランティアの受け入れなどを進めていきます。

## (1) 各園の取組

ア 絵本や紙芝居などの蔵書の充実と、良書の選定に努めます。

各園の職員の研修の中で蔵書として購入する本の選定を慎重に行い、園児が興味・関心を持って読める蔵書を充実させていきます。

イ 図書コーナーの整備に努め、すぐに手の届く場所への絵本の配置に努めます。

各園において図書コーナーを確保し、絵本が園児の目につきやすい場所に置かれるように工夫することや、絵本などがいつでも取り出せる環境にあるようにすることを進めます。

ウ 保護者や地域の読み聞かせボランティアの受け入れを積極的に進めます。

保護者や地域の読み聞かせボランティアに呼びかけ、各園で読み聞かせを行うボランティアを募集します。

エ おはなし会が日常的に行われるように努めます。

各園での日常生活の中に、おはなし会の時間を設定し、園児がおはなしに浸る時間を確保していきます。また、絵本から表現遊びに発展させることで、物語の理解の深まりが図れるように努めます。

オ 保護者に推薦絵本を紹介し、家庭での「親子読書」を支援します。

各園で保護者に良い絵本を紹介したり、職員や地域のボランティアが園児に読み聞かせをしている時に保護者が来園する機会を設け、その様子を見てもらうことで家庭での「親子読書」の参考になるように努めていきます。

## (2) 学校の取組

ア 子どもの読書活動の推進に係わる研修により教職員への啓発を図り、学校内の協力体制の確立を図ります。

司書教諭、学校司書、国語科教諭、総合的な学習の時間担当教諭等の研修においては、子どもの読書活動の重要性についての研修を積むとともに、校内研修でも読書指導の進め方や学校図書館の役割についての理解を図ります。

また、学校長の理解の下に、読書活動については全教職員の共通理解を図り、読書活動担当教員を中心とした教職員の協力体制の確立をめざします。

イ 市内の小・中学校における学校司書の配置の増加に努めます。

学校図書館の整備や児童・生徒の読書活動の支援者としての学校司書の役割は重要です。学校司書による図書館便りの発行、新刊書の紹介、児童生徒の読書相談、「伊豆市民読書の日」への取組、環境整備、また読書活動に係わる保護者や地域の読み聞かせボランティアのまとめ役等、学校司書が担う役割は多岐にわたり、児童・生徒の読書活動の推進に欠かせない存在です。現在では専任の学校司書が配置されている学校は、中学校1校と義務教育学校1校のみで、他の学校では1人の学校司書が2校を兼務しています。今より多くの学校司書が配置されるように努めます。

ウ 学校図書館の蔵書の充実を図ります。

学校における児童・生徒の興味や関心を把握するとともに、様々な調査に基づき、学校図書館の蔵書の充実を図ります。

エ 学校における朝読書の拡充に努めます。

現在では市内小・中・義務教育学校で実施している朝読書について、高等学校でも実施していくとともに、実施日数の拡大、実施体制の工夫、実施内容の改善等を進め、児童・生徒が日常的に読書に親しむ環境の整備に努めます。

オ 「親子読書」の啓発に努めます。

各家庭において、親子（家族）のふれあいを大切にする「親子読書」の啓発に努めます。

カ 地域の読み聞かせボランティアの活動を積極的に受け入れます。

保護者や地域の読み聞かせボランティアを学校で受け入れ、児童・生徒への読み聞かせや、学校図書館の整備等に活動してもらえるように、情報提供に努めるとともにその体制を整備していきます。

キ 児童・生徒の読書活動への関心を高めるため、各学校の状況に応じて特色ある行事を行います。

児童・生徒が読書活動に関心を高めるようにするため、「本の帯コンクール」「読書郵便の作成」等、各学校で工夫を凝らした関連行事を実施し、その効果についての検討会を各学校の担当職員によって行います。

また、静岡県が発行する読書ガイドブック「本とともにだち」(小学生版・中学生版)を活用し、子どもや保護者に対して子どもの成長過程に応じた本を紹介します。

ク 学校における余裕教室の活用を図ることや学校図書館のスペースを有効に活用し、児童・生徒がリラックスした雰囲気での読書ができる場を確保することを検討していきます。

余裕教室がある学校においては、その教室を有効に活用するとともに、学校図書館のスペースの活用を考えるなど、児童・生徒の安らいだ精神状態を引き出し、リラックスした雰囲気での読書ができるようなスペースを確保することを検討していきます。

ケ 資格を持つ教員に司書教諭を発令し、司書教諭を中心に学校図書館の機能を活用した学習の支援を進めます。

現在、司書教諭は12学級未満の学校には配置しなくてもよいこととなっています。しかし、資格を有する教員にはその学校の司書教諭としての分掌を教育委員会が発令し、こうした人たちの知識が学校で活かされるように進めます。

### 3 連携を図るための方策

子どもの読書活動が効率よく推進されるためには、関係機関の連携を図ること

が必要です。限りある蔵書が有効に活用されること、それぞれの立場で持つ知識や技能が多くの子どものために役立てられること、また子どもの発達段階に応じた支援が継続的かつ体系的になされること等で、子どもの読書活動は一層推進されます。そうした中、教育委員会が積極的にコーディネートし、これら諸団体の連携が円滑に進められるよう努めていきます。

ア 関係機関の担当者による連絡会を開催し、読書活動の推進を図ります。

司書教諭や学校司書と市立図書館司書、そして教育委員会関係者による連絡会を開催し、連携を図ります。

イ 中・高校生が、各園でおはなし会を行う機会を作ります。

中学生（義務教育学校7～9年生を含む）・高校生が、総合的な学習の時間や保育実習、部活動などで読み聞かせの練習を行い、園児の前で実践する機会を設定します。聞く者の立場にあった話し方などを考えることを通して、将来、親となる中・高校生の学習の深まりを目的とします。また、中・高校生の読み聞かせは、園児にとって親しみが持て、普段と違った雰囲気でおはなし会を聞くことができます。

ウ 健康福祉部との連携を深め、効果的な事業の進め方を検討していきます。

健康福祉部が担当する母子保健事業と、子どもの読書活動の推進に係わる事業の双方が効率的・効果的に進められるように連携を図っていきます。

特に、市立図書館と健康福祉部が互いの事業の情報交換を行い、効果的な事業運営を図っていきます。

エ 地域の読み聞かせボランティアのリストを整備します。

地域の読み聞かせボランティアのリストを整備し、関係機関からの要請に応えられるように努めていきます。

## 子ども読書活動に関するアンケート集計結果

対 象： 小学生：市内 6 小学校と義務教育学校の 6 年生(各学校 1 学級抽出) 132人  
 中学生：市内 3 中学校 2 年生と義務教育学校 8 年生(各学校 1 学級抽出) 97人  
 高校生：市内高等学校の 2 年生(本校、分校各 1 学級抽出) 50人

実施時期： 平成30年 4 月

1 在学する学校を聞く項目 …… 小学生132人、中学生97人、高校生50人

2 「子ども読書の日」が国の法で定められていることを知っているか。

- (1) 知っていて月日も言える  
 (2) 月日を言えないが知っている  
 (3) 知らない

(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0
(1)	11.2	2.3	0.9	1.0	1.4	0.0	6.3	1.4
(2)	53.3	56.8	24.3	53.6	9.9	34.0	36.6	51.6
(3)	35.5	40.9	74.8	45.4	88.7	66.0	57.2	47.0

3 1ヶ月にどれくらいの本を読むか。

(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0
(0) ほとんど読まない	8.1	9.8	12.5	15.5	32.9	20.0	14.0	13.6
(1) 1冊ぐらい	9.6	6.8	26.8	25.8	24.3	24.0	17.4	16.5
(2) 2冊ぐらい	16.8	9.8	24.1	12.4	24.3	12.0	20.3	11.1
(3) 3冊ぐらい	19.3	13.6	10.7	16.5	10.0	26.0	15.0	16.8
(4) 4冊ぐらい	9.6	11.4	5.4	10.3	2.9	6.0	7.1	10.0
(5) 5冊ぐらい	10.2	15.9	9.8	4.1	1.4	4.0	8.4	9.7
(6) 6冊ぐらい	6.1	7.6	4.5	2.1	0.0	2.0	4.5	4.7
(7) 7冊ぐらい	5.1	3.0	2.7	1.0	1.4	0.0	3.7	1.8
(8) 8冊ぐらい	3.0	4.5	1.8	3.1	0.0	0.0	2.1	3.2
(9) 9冊ぐらい	2.0	5.3	0.0	3.1	0.0	0.0	1.1	3.6
(10) 10冊以上	10.2	12.1	1.8	6.2	2.9	6.0	6.3	9.0
1人平均の読書量(冊)	4.7	5.5	2.6	3.3	1.7	2.9		
静岡県調査(2016年)冊	6.4		2.9		1.9			
県計画の目標(2018年)冊	7以上		4以上		2以上			

4 自由にすごせる時間ができたら、どのようにしてすごしたいか。(2つ以内選択)

(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0
(1) 何もせずのんびり休みたい(または寝ていたい)	9.7	11.7	19.9	17.3	23.7	34.4	15.5	17.8
(2) ボランティア活動をしたい	0.6	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.4	0.0
(3) 好きな本を読みたい	8.5	6.1	6.3	6.4	5.3	10.0	7.2	6.9
(4) 学校の勉強をしたい	1.5	3.0	1.9	0.6	0.8	1.1	1.5	1.8
(5) 自分の趣味を楽しみたい	19.6	21.2	23.3	28.9	16.8	20.0	20.2	23.7
(6) テレビやビデオ・DVDなどを見たい	12.6	11.7	17.0	11.6	15.3	13.3	14.5	11.9
(7) ゲームをしたい	16.1	20.8	10.2	12.7	11.5	15.6	13.4	17.0
(8) スポーツをしたい	13.8	12.6	6.3	11.0	3.8	1.1	9.6	9.9
(9) 自由に外で遊びたい	14.1	6.9	12.1	6.9	19.1	2.2	14.5	6.1
(10) その他	3.5	6.1	2.9	4.6	3.1	2.2	3.2	4.9

5 周囲の大人に、良い本だということで、本を紹介してもらった経験があるか。

(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0
(1) 何度もある	17.5	14.5	19.8	17.5	14.3	16.0	17.6	15.8
(2) 回数は少ないが経験がある	54.1	61.8	49.1	51.5	55.7	64.0	52.9	58.6
(3) 経験はない	28.4	23.7	31.0	30.9	30.0	20.0	29.5	25.5

6 本を読むことが好きか。

(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0
(1) とても好き	23.0	24.2	24.3	35.1	15.5	24.0	22.0	28.0
(2) どちらかと言えば、好き	33.2	34.8	40.9	32.0	38.0	46.0	36.4	35.8
(3) どちらとも言えない	33.7	28.8	21.7	25.8	35.2	26.0	30.4	27.2
(4) きらい	10.2	12.1	13.0	7.2	11.3	4.0	11.3	9.0

7 他の人に本を読んでもらい、それを聞かせてもらうことは好きか。

(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0	H 2 3	H 3 0
(1) とても好き	17.7	21.5	5.2	12.5	2.8	0.0	11.1	14.7
(2) どちらかと言えば、好き	40.1	35.4	24.3	34.4	12.7	36.2	30.2	35.2
(3) どちらとも言えない	32.3	34.6	44.3	39.6	60.6	53.2	41.3	39.6
(4) きらい	9.9	8.5	26.1	13.5	23.9	10.6	17.5	10.6

8 今までに、家の人に本を読んでもらった経験があるか。

(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H23	H30	H23	H30	H23	H30	H23	H30
(1) 何度も読んでもらった	35.9	45.4	21.7	44.8	16.9	21.3	28.0	41.0
(2) 少しは読んでもらった	49.5	40.0	47.8	36.5	45.1	57.4	48.1	41.8
(3) 読んでもらった記憶がない	14.6	14.6	30.4	18.8	38.0	21.3	23.8	17.2

「本を読むこと」が「(1)とても好き」「(4)嫌い」と答えた児童・生徒の他の項目での回答

周囲の大人に本を紹介してもらった経験があるか。

回答	とても好きな子				きれいな子			
	平成23年		平成30年		平成23年		平成30年	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
(1) 何度もある	28	34.2	22	28.6	6	11.8	4	16.0
(2) 経験がある	30	36.6	40	51.9	17	33.2	8	32.0
(3) 経験がない	24	29.2	15	19.5	28	55.0	13	52.0

家族の人に本を読んでもらった経験があるか。

回答	とても好きな子				きれいな子			
	平成23年		平成30年		平成23年		平成30年	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
(1) 何度もある	30	40.5	45	59.2	5	19.2	7	28.0
(2) 少しはある	29	39.2	23	30.3	8	30.8	8	32.0
(3) 記憶にない	15	20.3	8	10.5	13	50.0	10	40.0

9 どのくらいの割合で「公の図書館」を利用しますか。

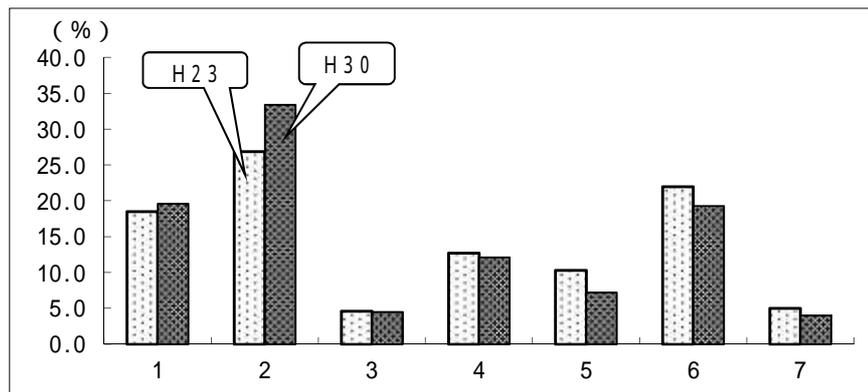
(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H23	H30	H23	H30	H23	H30	H23	H30
(1) 1週間に1回以上	6.8	3.1	1.8	2.1	0.0	0.0	4.0	2.2
(2) 1ヶ月に1回以上	31.4	19.2	17.5	18.8	2.8	2.1	21.8	16.1
(3) 1年に数回	52.9	70.8	68.4	66.7	56.3	70.2	58.2	69.2
(4) 利用したことがない	8.9	6.9	12.3	12.5	40.8	27.7	16.0	12.5

10 どのような目的で「公の図書館」を利用したか。（複数回答）

(%)

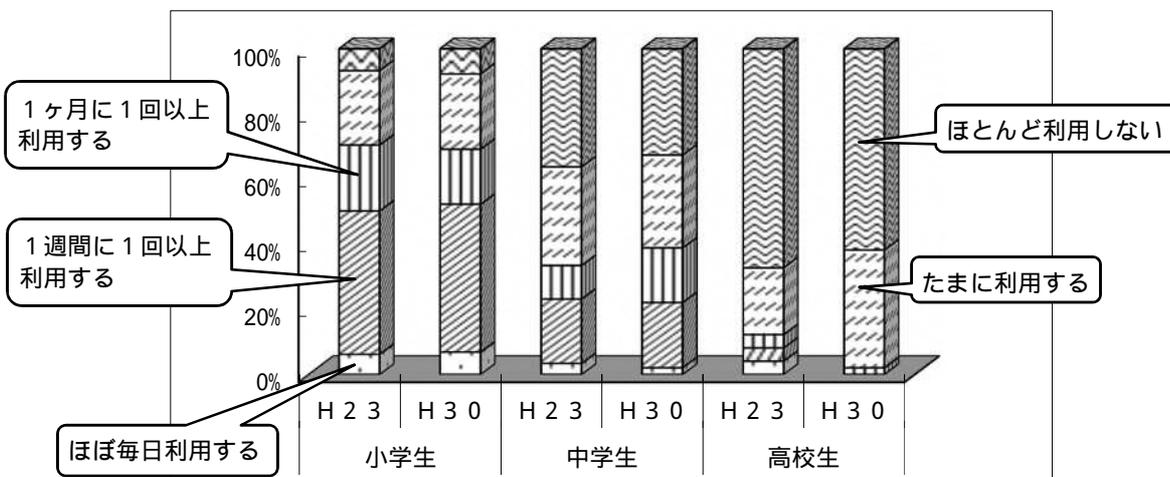
回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H23	H30	H23	H30	H23	H30	H23	H30
(1)自分が興味を持ったことを調べるため	20.2	20.3	16.6	19.6	16.4	16.3	18.5	19.6
(2)自分が自由にすごせるときに読む本を借りるため	30.0	39.1	27.5	30.7	12.3	18.4	26.9	33.4
(3)図書館のお話し会や読み聞かせ会などの行事に行った	5.0	4.5	5.2	5.2	1.4	2.0	4.6	4.5
(4)他にすることもなく、図書館に立ち寄ってみた	13.2	9.4	14.0	15.7	6.8	12.2	12.7	12.1
(5)学校で学習している内容を調べるため	9.1	7.4	6.7	4.6	24.7	14.3	10.3	7.2
(6)図書館で宿題をしたり勉強したりするため	17.0	14.4	24.9	20.9	35.6	34.7	22.0	19.3
(7)その他	5.4	5.0	5.2	3.3	2.7	2.0	5.0	4.0



11 授業以外の休み時間や昼休み、放課後に、学校の図書室をどのくらいの割合で利用するか。

(%)

回答	小学生		中学生		高校生		全体	
	H23	H30	H23	H30	H23	H30	H23	H30
(1)ほぼ毎日利用する	6.2	6.9	3.4	2.1	4.2	0.0	4.5	4.0
(2)1週間に1回以上利用する	44.0	45.4	19.8	20.0	4.2	0.0	29.2	28.7
(3)1ヶ月に1回以上利用する	20.2	16.9	10.3	16.8	4.2	2.1	14.2	14.3
(4)たまに利用する	22.8	23.1	30.2	28.4	21.1	36.2	24.7	27.2
(5)ほとんど利用しない	6.7	7.7	36.2	32.6	69.0	61.7	27.4	25.7



四捨五入で計算しているため、割合の合計が100%になっていない場合があります。

## 平成30年度伊豆市子ども読書活動推進委員会委員名簿

任期：平成30年4月1日～平成31年3月31日

	役 職	氏 名	所 属 等
1	委 員 長	松 下 八 十 二	熊坂小学校長
2	副委員長	鳥 沢 映 代	読み聞かせボランティア(くすの木)
3	委 員	塩 崎 利 浩	社会教育委員
4	委 員	牧 京 子	社会教育委員(熊坂こども園長)
5	委 員	土 屋 ち か 子	認定こども園あゆのさと園長
6	委 員	吉 川 浩 資	県立伊豆総合高等学校教諭
7	委 員	伊 藤 沙 織	修善寺中学校教諭
8	委 員	原 洋 子	家庭文庫主宰(はらっぱ文庫)
9	委 員	飯 田 貴 美 子	放課後児童クラブ(くまっこらぶ)
10	委 員	下 村 純 子	修善寺中学校司書
11	委 員	渡 部 雅 代	静岡県子ども読書アドバイザー
12	委 員	荻 島 亮 子	修善寺図書館司書